

会員行の平成 18 年度中間決算の概要

〔平成 18 年 12 月 15 日〕
〔(社)第二地方銀行協会〕

会員行の平成 18 年度中間決算（単体）の概要は以下のとおりである。

（注）計数は平成 18 年 9 月末時点の会員行 47 行ベース。

平成 18 年 12 月 27 日、会員行の決算修正に伴い、訂正（下線部が訂正箇所）。

1. 損益概況（業務純益：1,912 億円、経常利益：786 億円、中間純利益：349 億円）

平成 18 年度中間期における業務純益は、前中間期比△190 億円、△9.1%減少して 1,912 億円、経常利益は同△454 億円、△36.6%減少して 786 億円、中間純利益は同△411 億円、△54.1%減少して 349 億円となった。

業務純益は、資金利益および役務取引等利益が増加したものの、国債等債券売却損、経費の増加、一般貸倒引当金の繰入（前中間期は戻入）等により減益となった。

また、経常利益は、株式等売却益が増加したものの、一部会員行における個別貸倒引当金繰入増により減益となり、この結果、中間純利益も減益となった。

2. 業務純益の状況

(1) 資金利益（5,371 億円）

資金利益は、前中間期比+66 億円、+1.3%増加して 5,371 億円となった。

この内訳をみると、預貸金収支は、利鞘縮小から同△133 億円、△2.9%減少して 4,402 億円となった。

一方、有価証券利息配当金は、有価証券利回の上昇を主因に、同+171億円、21.9%増加して957億円となった。

(2) 役務取引等利益（473 億円）

役務取引等利益は、投信および保険窓販業務の手数料収入が引続き高水準で増加していることを主因に、前中間期比+74 億円、+18.8%増加して 473 億円

となった。

3. 不良債権比率 (5.04%)

金融再生法開示債権（破産更生等債権、危険債権、要管理債権）は、前中間期末比△2,636億円、△11.0%減少して2兆1,376億円となった。この結果、不良債権比率（開示債権の総与信額に占める比率）は、同△0.81%ポイント低下して5.04%となった。

4. 単体自己資本比率 (9.39%)

単体自己資本比率は、前中間期末比+0.33%ポイント上昇して9.39%となった。

5. 預金・貸出金（末残）

(1) 預金 (54兆6,017億円)

預金（末残）は、前中間期末比+5,823億円、同+1.1%増加して54兆6,017億円となった。

種類別にみると、要求払預金が増加した一方、定期性預金は減少した。

(2) 貸出金 (41兆7,426億円)

貸出金は、前中間期末比+1兆3,403億円、+3.3%増加して41兆7,426億円となった。

地区別にみると、関東・近畿・北海道地区で平均伸び率を上回った。

以 上

(別表)

<損益の内訳>

(単位：百万円、%)

	平成18年度 中間期	前中間期比	
		増減額	増減率
業務純益	191,203	△ 19,089	△ 9.1
資金利益	537,190	6,694	1.3
役務取引等利益	47,336	7,480	18.8
臨時損益	△ 112,410	△ 26,439	-
経常利益	78,668	△ 45,492	△ 36.6
中間純利益	34,920	△ 41,101	△ 54.1

(注) 計数は、平成18年9月末現在の全会員行47行ベースである。

<資金利益の内訳>

(単位：百万円、%)

	平成18年度 中間期	前中間期比	
		増減額	増減率
資金利益	537,190	6,694	1.3
預貸金収支	440,208	△ 13,353	△ 2.9
有価証券利息配当金	95,786	17,183	21.9